

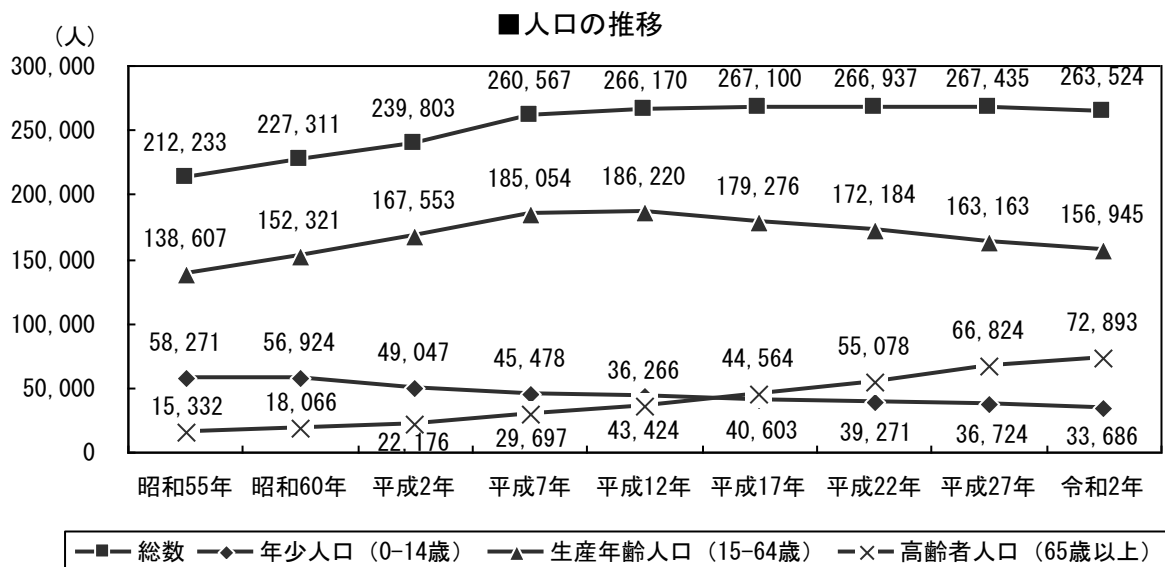
## 加古川市の現状について

### 1 データからみた加古川市

#### (1) 人口の推移

##### ① 人口の推移

人口の推移をみると、昭和 55 年から平成 17 年までは増加していました。その後、横ばい傾向になり、令和 2 年には 263,524 人となっています。年齢別にみると年少人口（0～14 歳）は減少で推移し、令和 2 年には 33,686 人となっています。生産年齢人口（15～64 歳）は平成 12 年までは増加していたものの、平成 17 年には減少となり、令和 2 年には 156,945 人となっています。高齢者人口（65 歳以上）は増加で推移しており、令和 2 年には 72,893 人となっています。

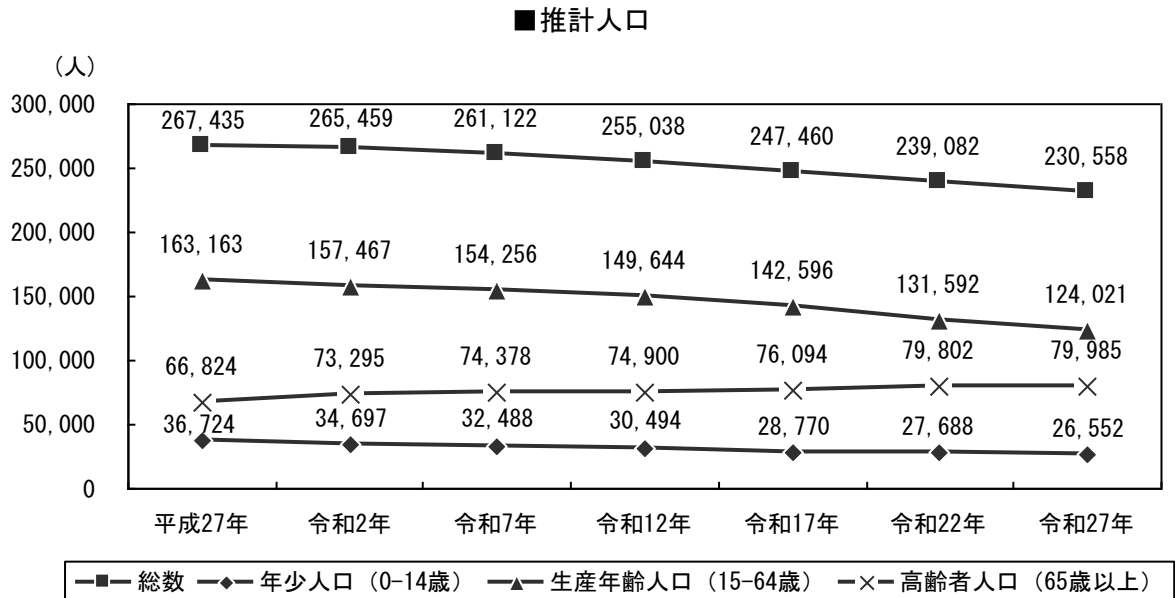


(資料：平成 27 年以前は国勢調査、令和 2 年は住民基本台帳 4 月 1 日)

※ 総人口には年齢不詳を含むため合計が一致しない場合があります

## ② 将来人口推計

令和27年(2045年)までの推計では人口が230,558人と、平成27年に比べて36,877人減少する見込みとなっています。また、年齢別にみると、平成27年に比べて年少人口は10,172人の減少、生産年齢人口は39,142人の減少、高齢者人口は13,161人増加する見込みであり、今後、少子化が進むことで、高齢化率はさらに上昇することが見込まれます。

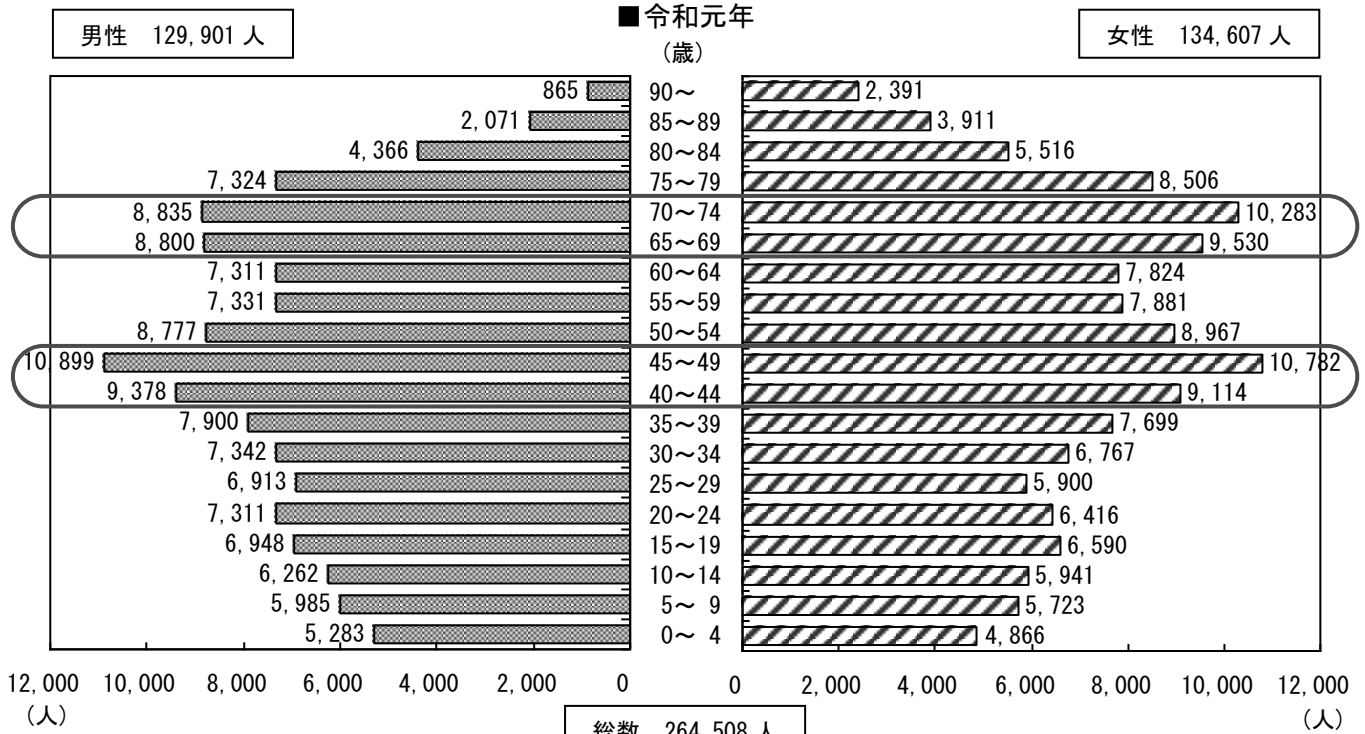


(資料：平成27年は国勢調査、令和2年以後は社会保障・人口問題研究所)

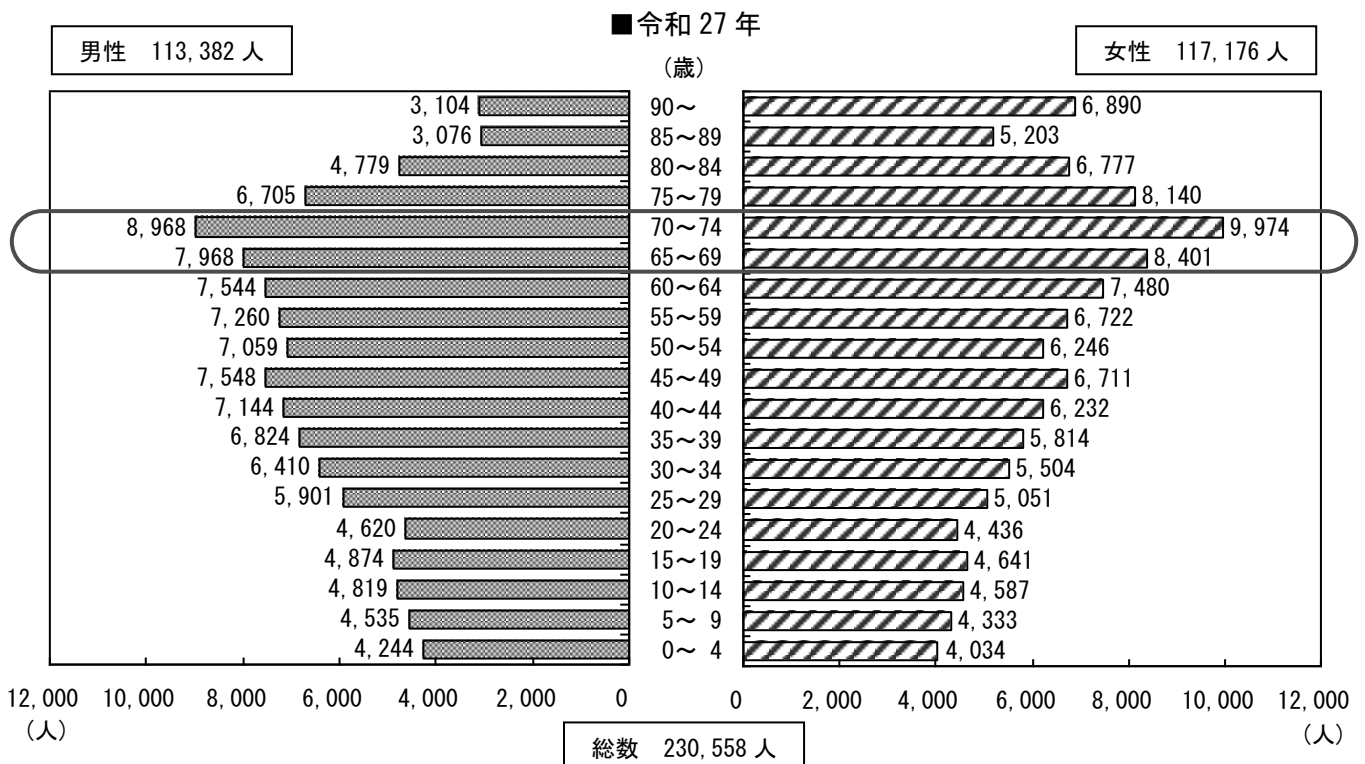
### ③ 人口ピラミッド

令和元年10月時点の人口ピラミッドをみると、昭和22年から昭和24年に生まれた団塊の世代（71～73歳頃）を含む年齢層と、昭和46年から昭和49年に生まれた団塊ジュニア（45～48歳頃）を含む年齢層がともに多くなっています。

令和27年（2045年）の推計では、団塊ジュニア（71～74歳頃）を含む層より年齢が下がるにつれて人数が少なくなる傾向にあります。



(資料：市民課、令和元年住民基本台帳10月1日)

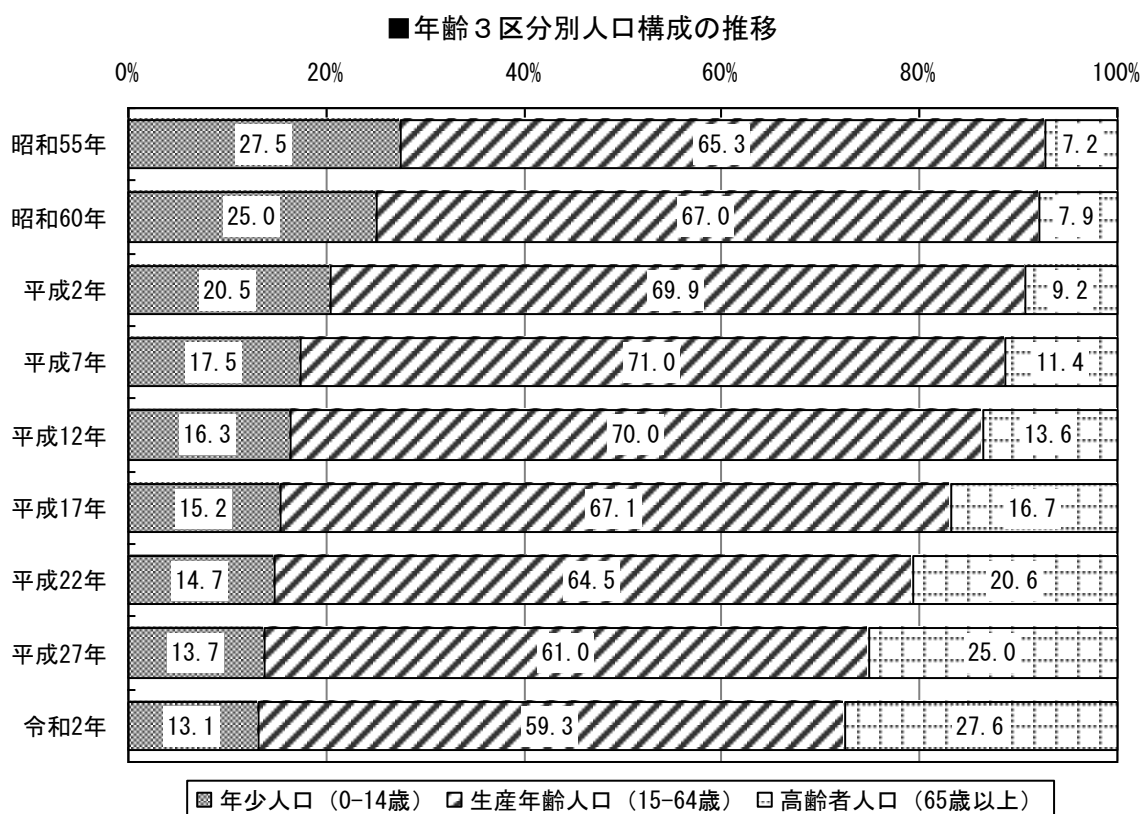


(資料：社会保障・人口問題研究所)

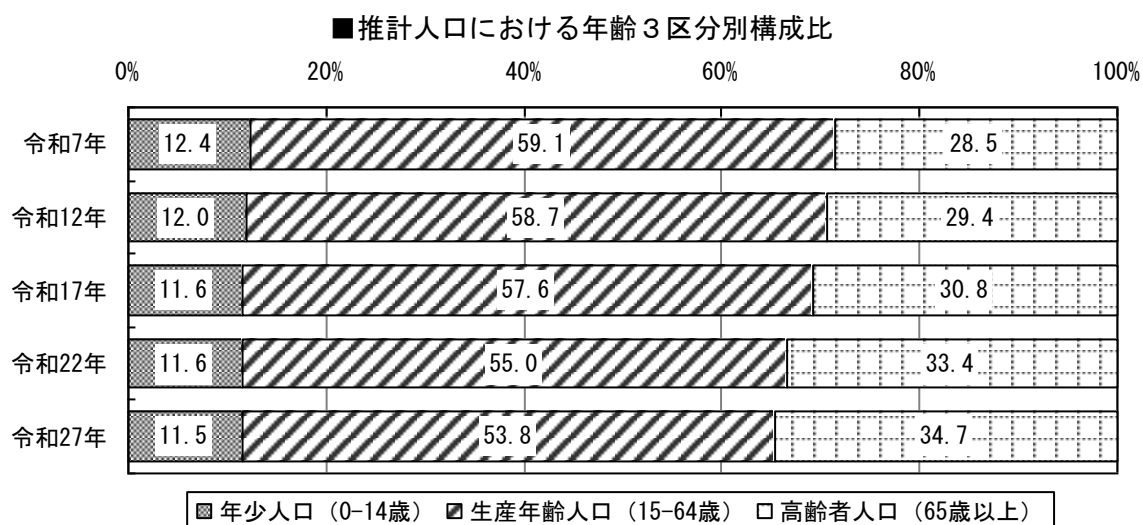
#### ④ 年齢3区分別人口構成の推移

年齢3区分別人口構成の推移をみると、年少人口（0～14歳）割合は減少で推移しており、平成27年で13.7%となっています。一方で、高齢者人口（65歳以上）割合は増加しており、平成27年で25.0%と少子高齢化が進んでいることがうかがえます。

社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和22年には高齢者人口割合が全体の3分の1を上回り、なお増加し続ける見込みになっています。



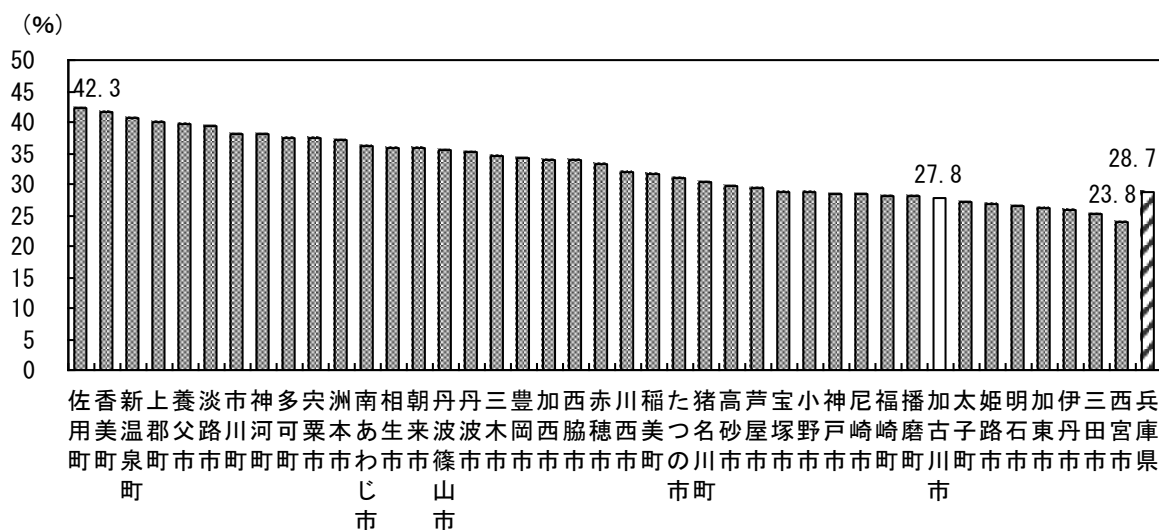
(資料：平成27年以前は国勢調査、令和2年は社会保障・人口問題研究所)  
 ※ 総人口には年齢不詳を含むため合計が一致しない場合があります



(資料：社会保障・人口問題研究所)

### ⑤ 県下各市町高齢化率の状況

県下各市町高齢化率の状況をみると、加古川市は高齢化率が 27.8%となっており、比較的  
低いです。

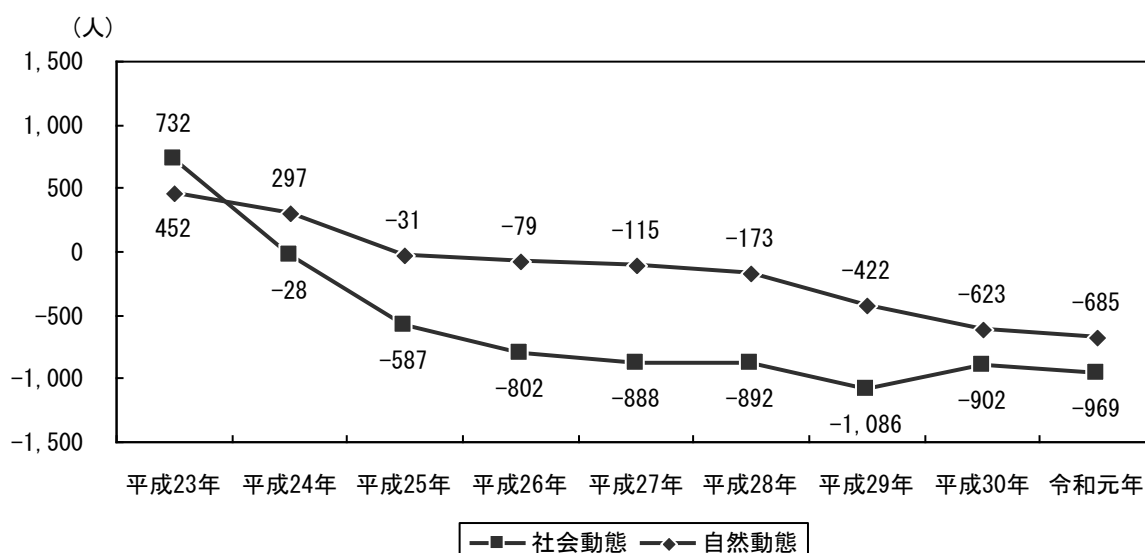


(資料：兵庫県市町別高齢化率 (令和2年2月1日現在))

## (2) 人口動態

### ① 人口動態

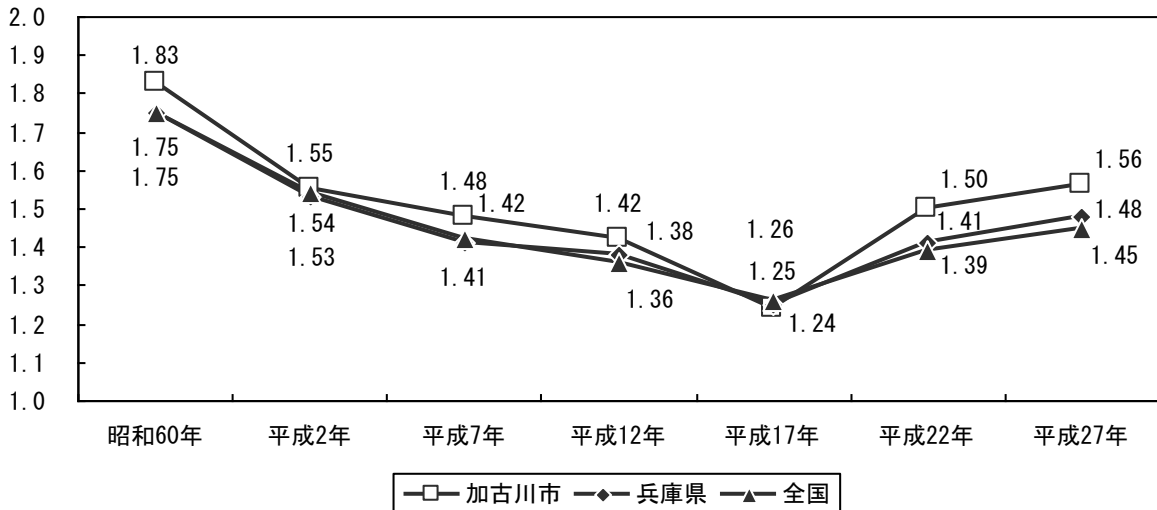
社会動態をみると、平成 23 年度に増となって以降、平成 24 年度からは減で推移していま  
す。自然動態については、ゆるやかな減少傾向となっており、平成 25 年度以降は減で推移し  
ています。



(資料：自然動態は市統計書、社会動態は住民基本台帳人口移動報告 (総務省))

## ② 加古川市・兵庫県・国の合計特殊出生率の推移

加古川市の合計特出生率の推移をみると、平成17年に最も低くなった後、やや上昇傾向にあります。平成27年には1.56となっており、国・兵庫県と比較すると高い水準になっています。



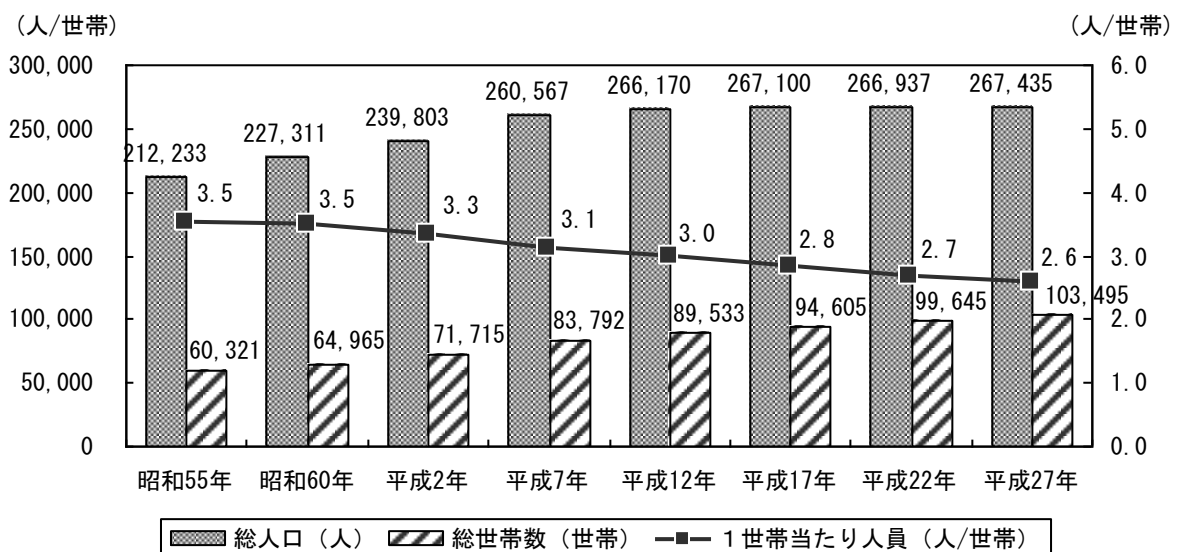
(資料：兵庫県保健統計年報)

※ 合計特殊出生率：厚生労働省「人口動態統計」における指標。一人の女性が一生の間に生む子どもの数の目安として用いられます。

## (3) 世帯等の状況

### ① 人口と世帯数の推移

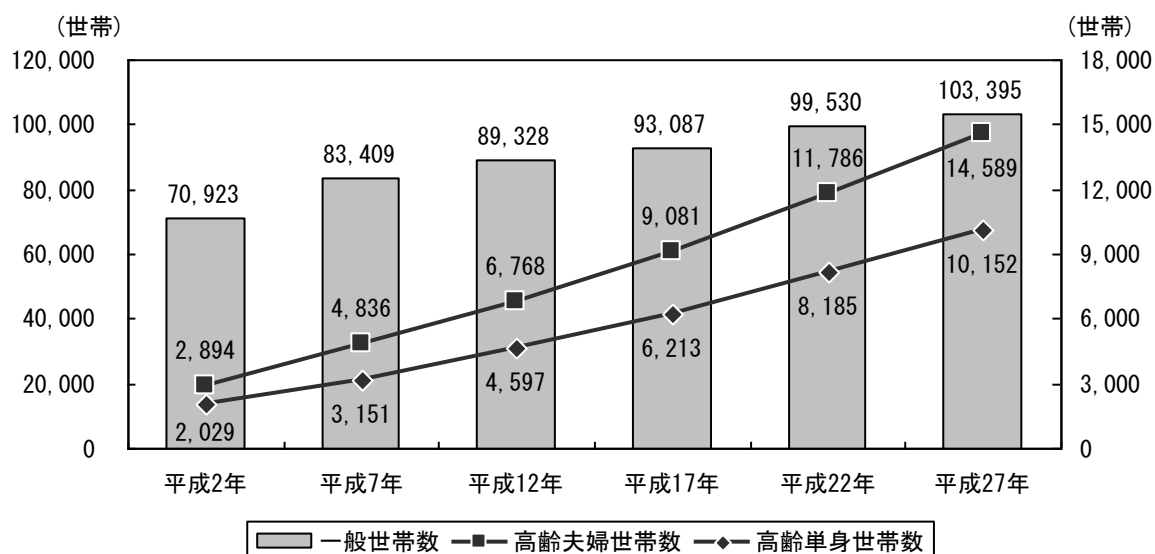
総世帯数の推移をみると、増加傾向で推移しており、平成27年には103,495世帯となっています。また、1世帯当たりの人員は減少して、平成27年には2.6人となっており、家族の少人数化が依然として進んでいます。



(資料：国勢調査)

## ② 高齢者のいる世帯の推移

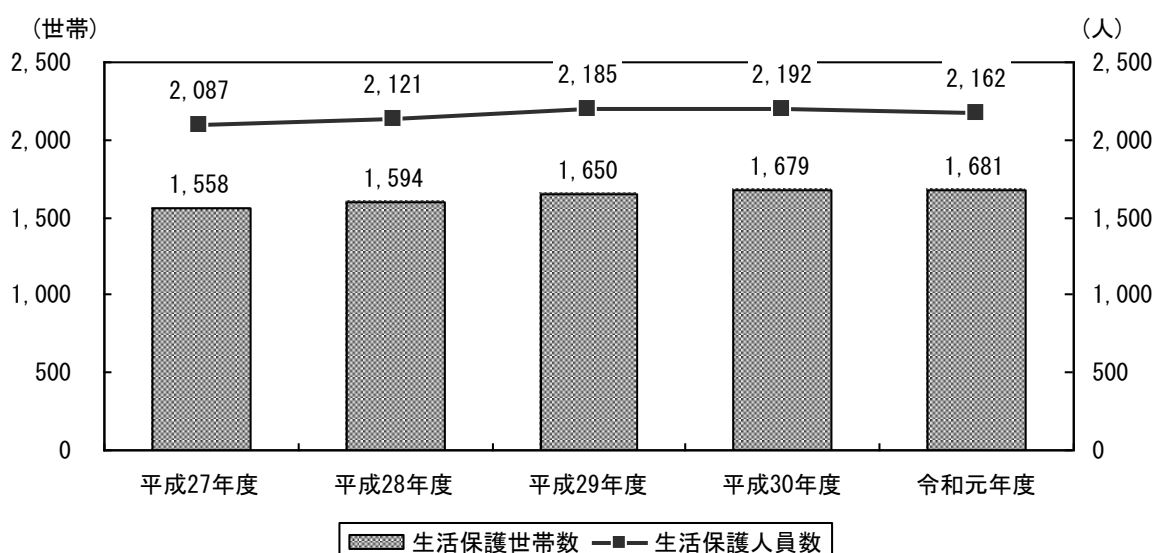
高齢者夫婦世帯数をみると、平成2年から平成27年の間に、11,695世帯の増加となっています。高齢者単身世帯数では、8,123世帯の増加となっています。



(資料：国勢調査)

## ③ 生活保護世帯数の推移

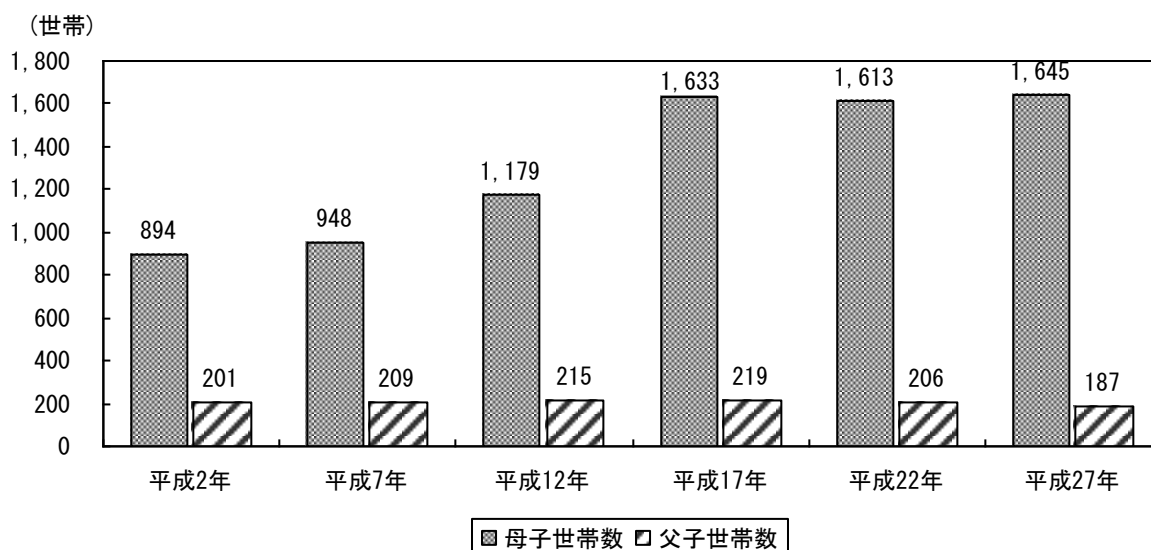
生活保護世帯数の推移をみると、増加していますが近年はゆるやかな傾向にあり、平成27年度から令和元年度までで123世帯が増加しています。あわせて、生活保護人員数は、近年は横ばいの傾向にあり、令和元年度までで75人の増加となっています。



(資料：生活福祉課)

#### ④ ひとり親世帯数の推移

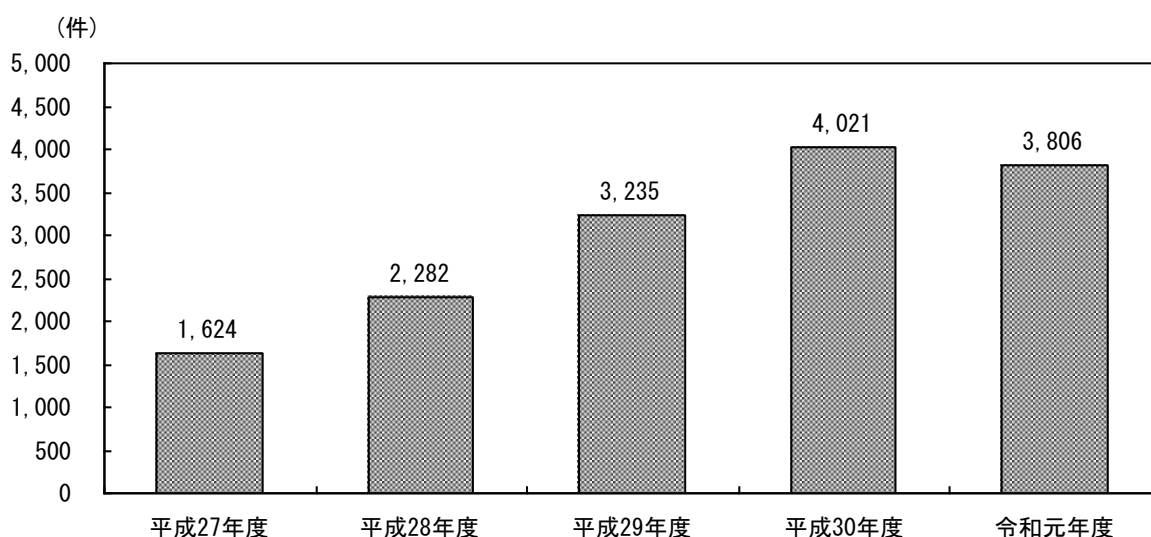
ひとり親世帯数の推移をみると、母子世帯数、父子世帯数ともに平成17年までは増加で推移していました。平成17年からは母子世帯数は横ばい傾向にあり、平成27年には1,645世帯となっています。父子世帯数は減少しており、平成27年には187世帯となっています。



(資料：国勢調査)

#### ⑤ 認知症の相談件数

地域包括支援センターに寄せられた認知症への相談件数は、平成30年度まで増加していました。令和元年度にはやや減少して3,806件となっています。



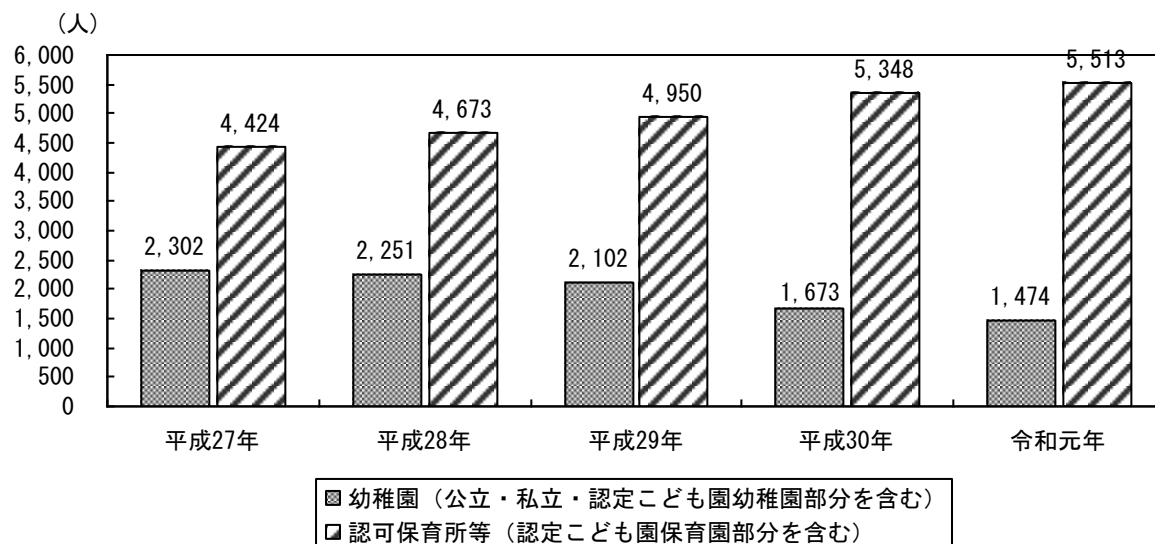
(資料：地域包括支援センター活動状況調べ)



## (4) 就学前の保育状況

### ① 入園児童の推移

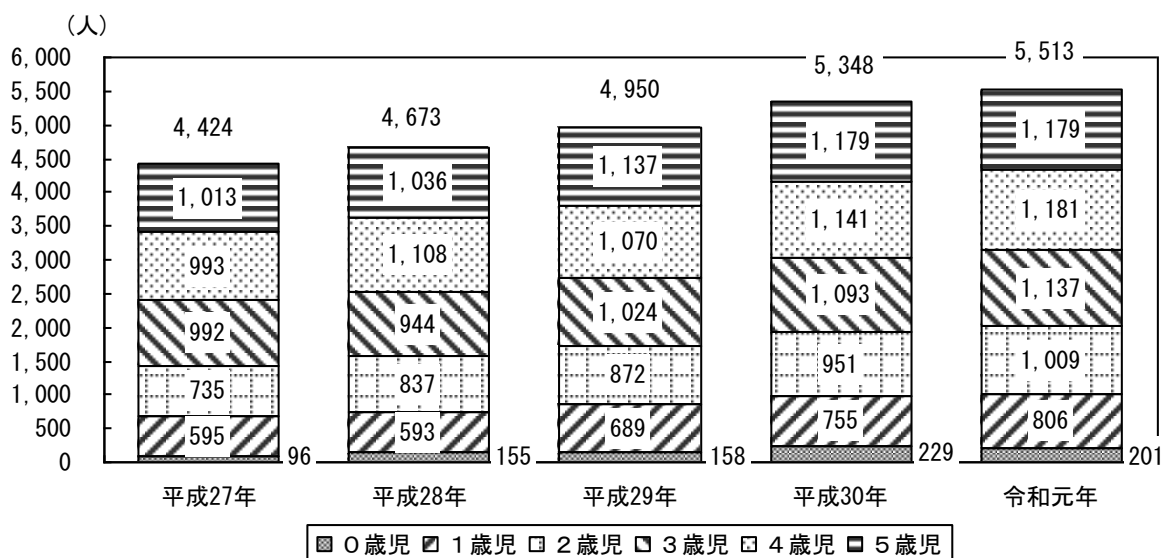
認可保育所等の入所児童数は増加で推移しており、令和元年には5,513人となっています。一方、幼稚園の入園児童数は減少で推移しており、令和元年には1,474人となっています。



(資料：幼児保育課、学務課)

### ② 認可保育所等の年齢区分別入所児童数の推移

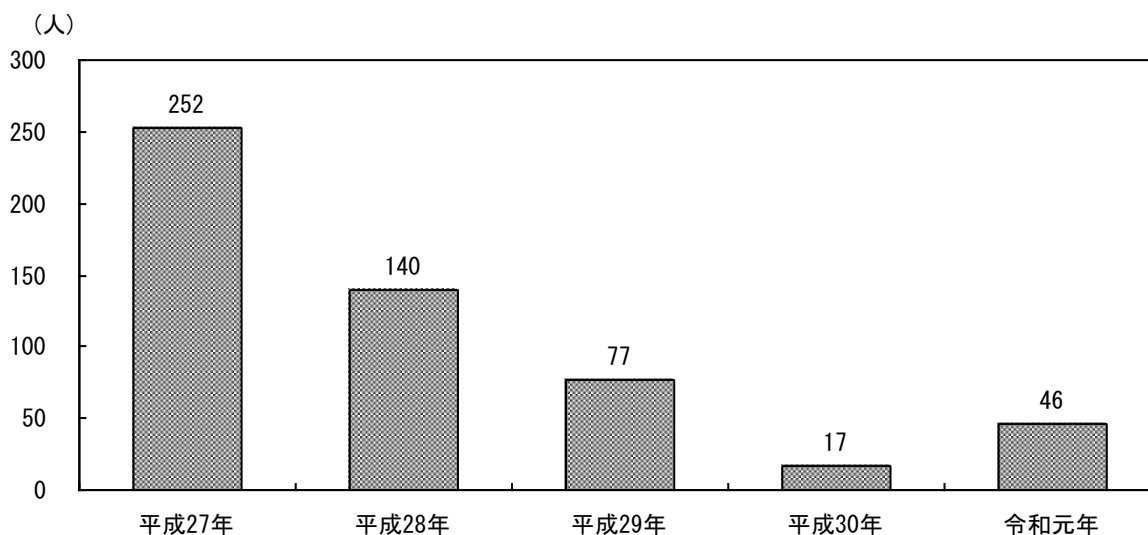
認可保育所等の年齢区分別入所児童数の推移をみると、いずれの年齢区分も増加傾向にあります。とくに2歳児は一貫して増加しています。



(資料：幼児保育課)

### ③ 待機児童の推移

待機児童の推移をみると、平成27年に子ども・子育て支援新制度の開始の影響や待機児童の定義変更で大きく増えた後、減少で推移していましたが、令和元年に再び増加して46人となっています。

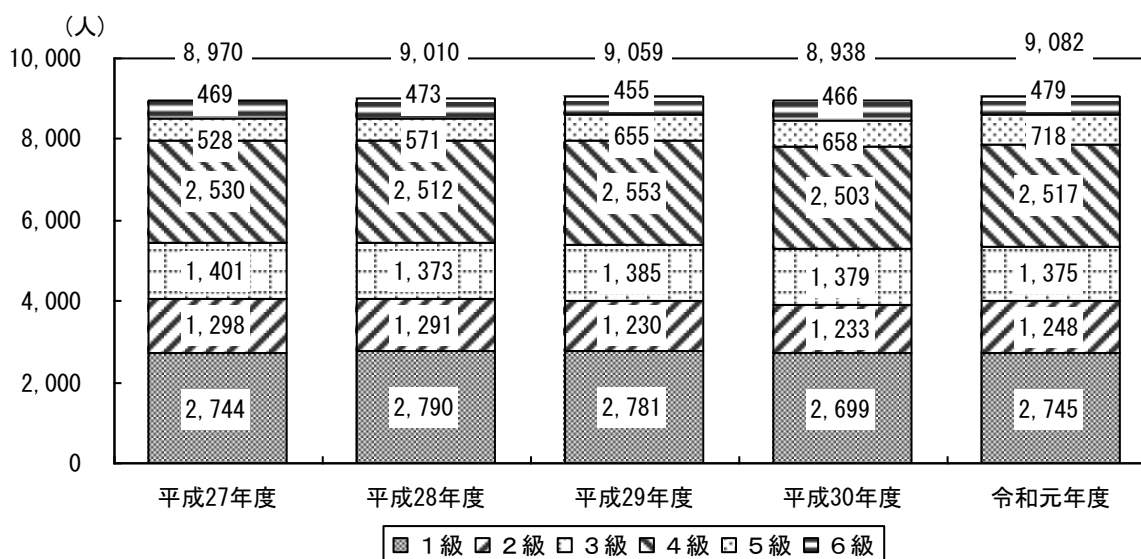


(資料：幼児保育課)

## (5) 障害者手帳所持者の状況

### ① 身体障害者手帳所持者数の推移

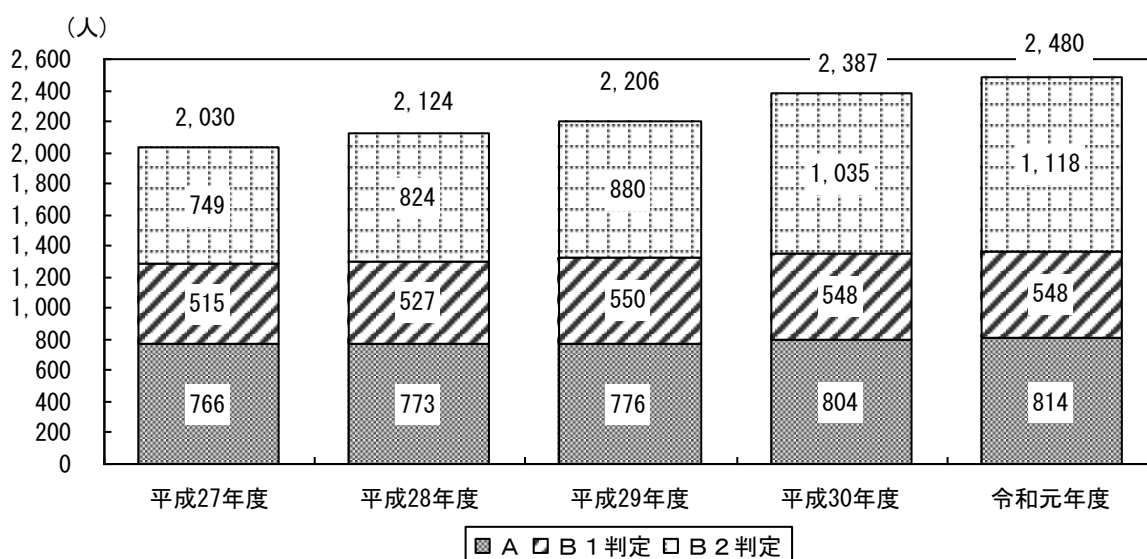
身体障害者手帳所持者数の推移をみると、ほぼ横ばい傾向にあります。いずれの等級も増減しながら横ばいで推移しています。



(資料：障がい者支援課)

## ② 療育手帳所持者数の推移

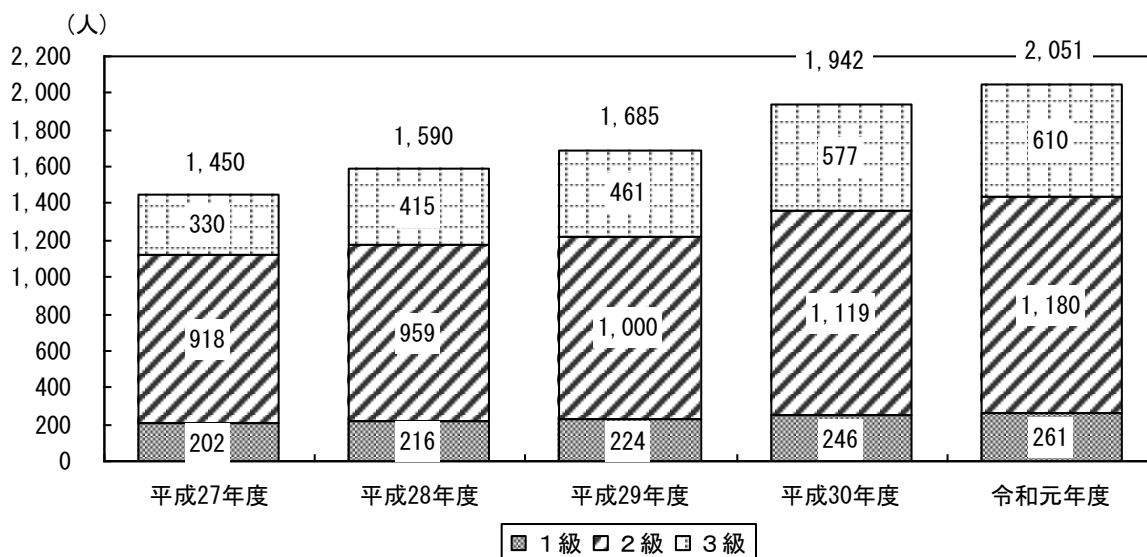
療育手帳所持者数の推移をみると、概ねすべての区分で増加しています。



(資料：障がい者支援課)

## ③ 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移をみると、すべての区分で増加しています。

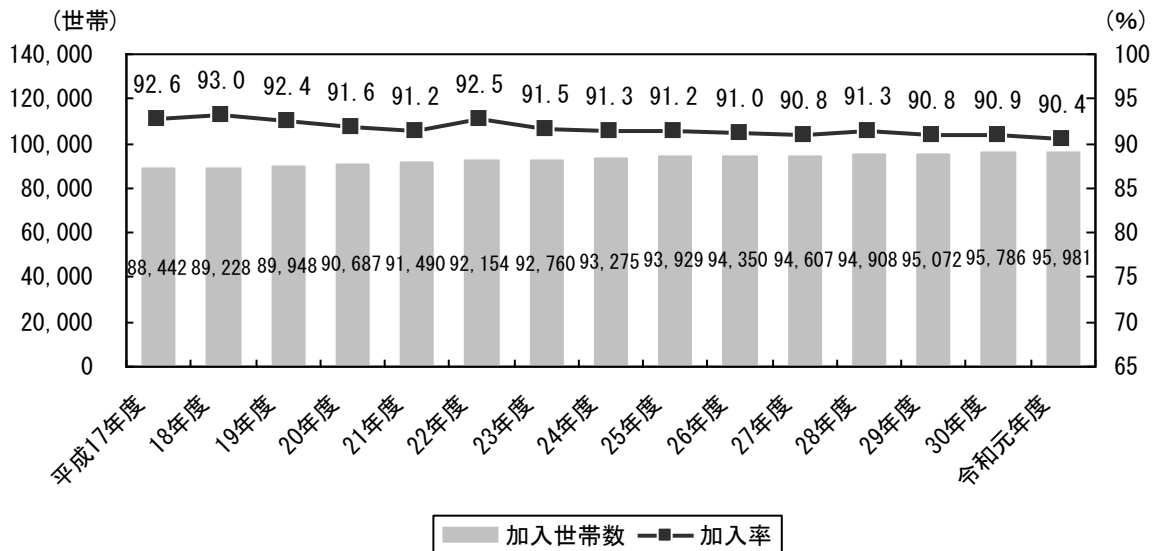


(資料：障がい者支援課)

## 2 地域活動等の状況

### (1) 町内会（自治会）

町内会加入世帯数及び加入率の推移をみると、加入世帯数はゆるやかに増加しており、令和元年度には95,981世帯となっています。また、加入率は増減を繰り返しながらやや減少傾向にあり、令和元年度には90.4%となっています。

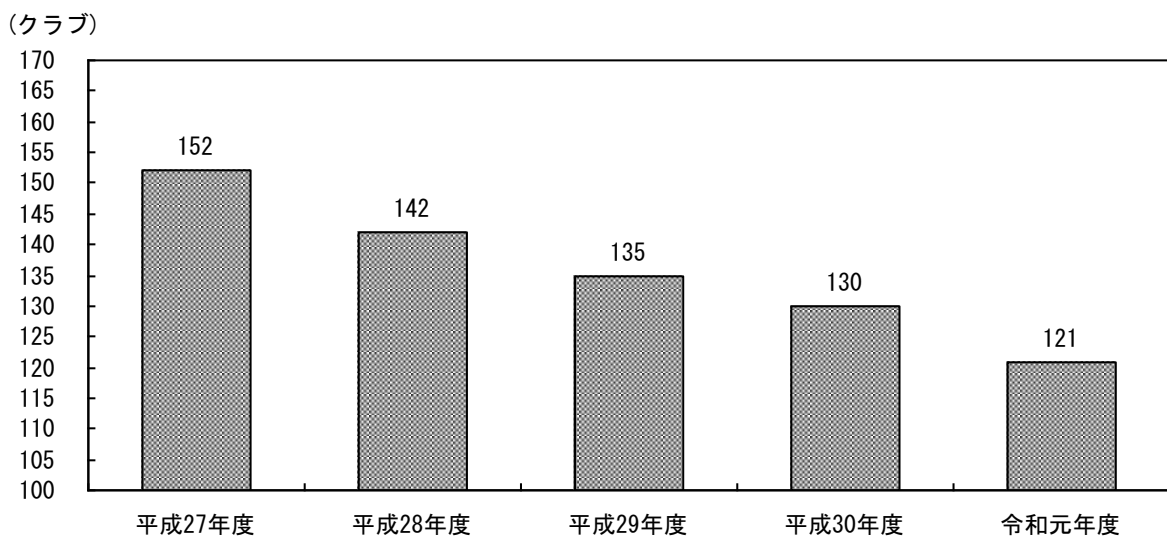


(資料：協働推進課)

### (2) 老人クラブ

#### ① 老人クラブ数

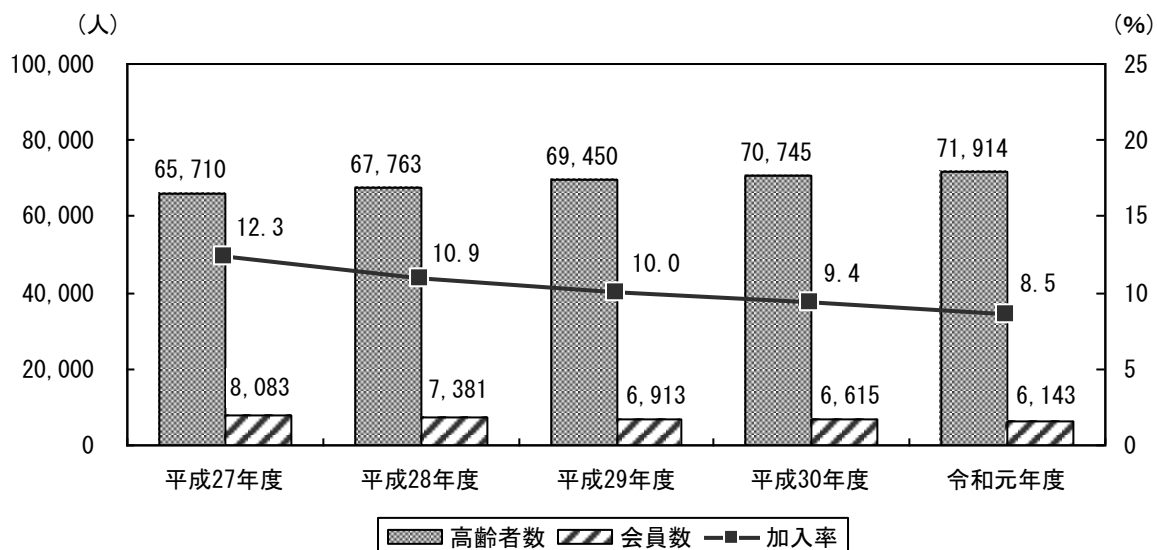
老人クラブ数の推移をみると、減少しており、令和元年度には121クラブとなっています。



(資料：高齢者・地域福祉課)

## ② 老人クラブ加入者数・加入率

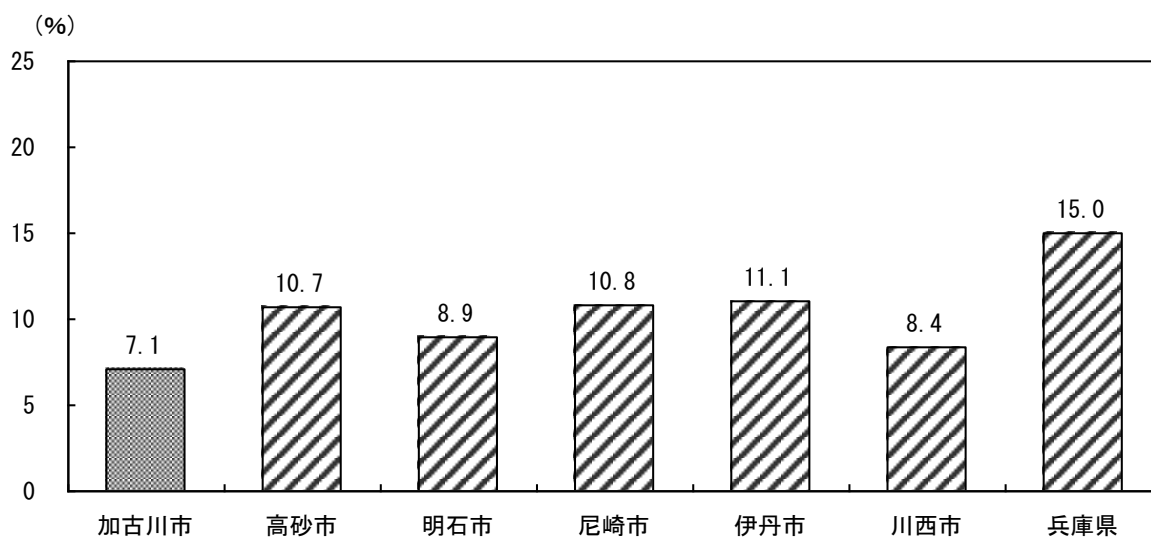
老人クラブ加入者数・加入率をみると、加入会員数は減少しており、令和元年度には6,143人となっています。同様に、加入率も減少しており、令和元年度には8.5%となっています。



(資料：高齢者・地域福祉課)

## ③ 県下各市老人クラブ加入率

県下各市老人クラブ加入率をみると、加古川市は兵庫県平均より7.9ポイント低くなっています。

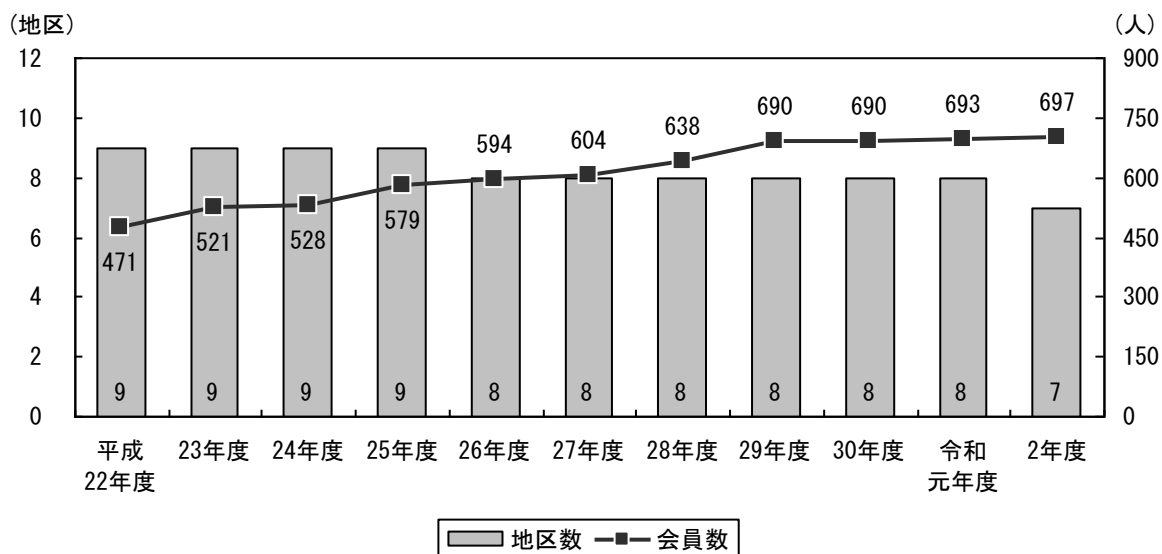


(資料：高齢者・地域福祉課、令和元年度)

※ 県要綱より、老人クラブの加入者は概ね60歳以上。

### (3) 婦人会

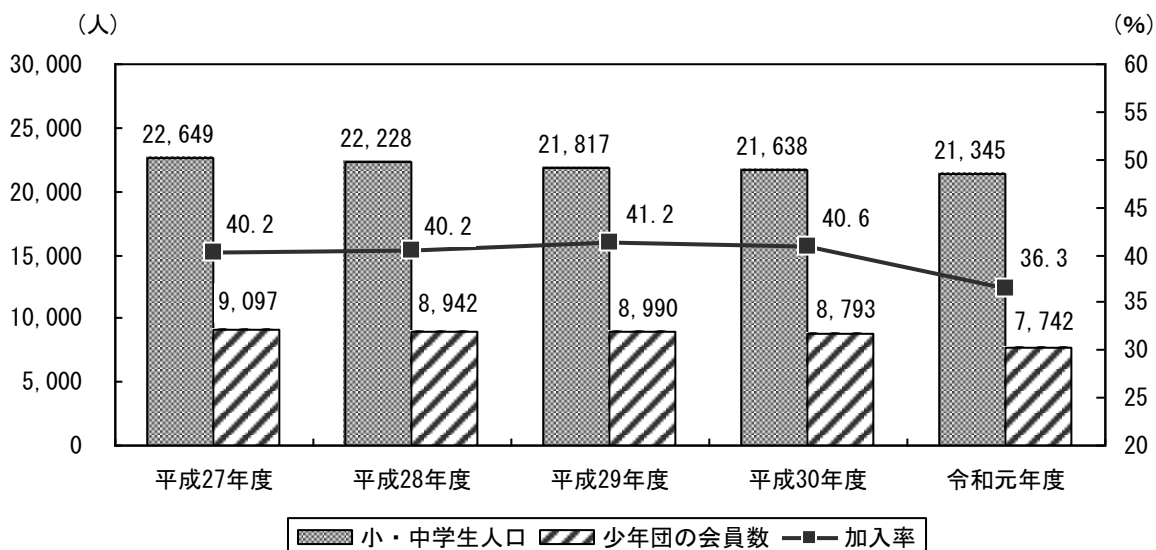
連合婦人会の加入地区・会員数をみると、地区数は平成26年度と令和2年度に減少しており、令和2年度には7地区となっています。会員数は令和2年度には697人となっています。



(資料：男女共同参画センター)

### (4) 少年団

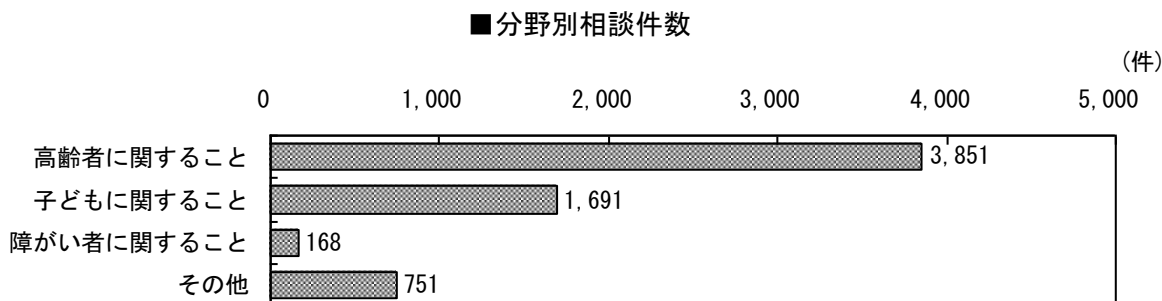
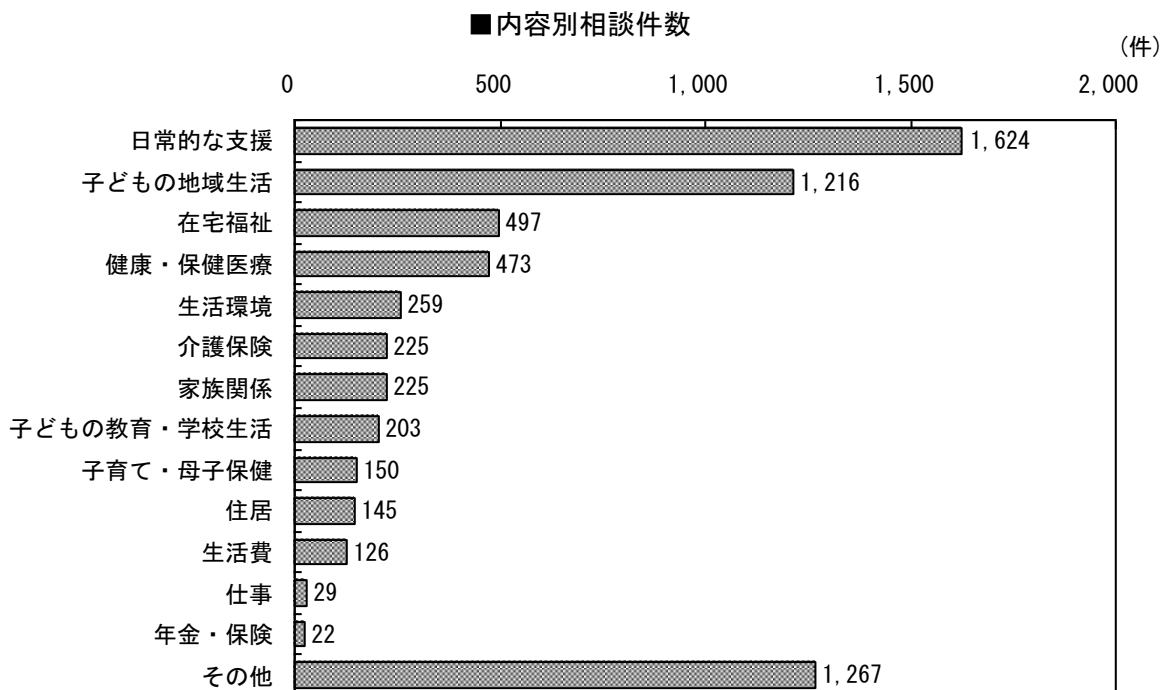
加古川市少年団指導者協議会への少年団会員数・加入率をみると、小・中学生人口のゆるやかな減少に伴い、少年団の会員数は減少傾向にあり、令和元年度には7,742人となっています。加入率は横ばい傾向で推移していましたが、令和元年度には減少して36.3%となっています。



(資料：青少年育成課)

### (5) 民生委員・児童委員の活動状況

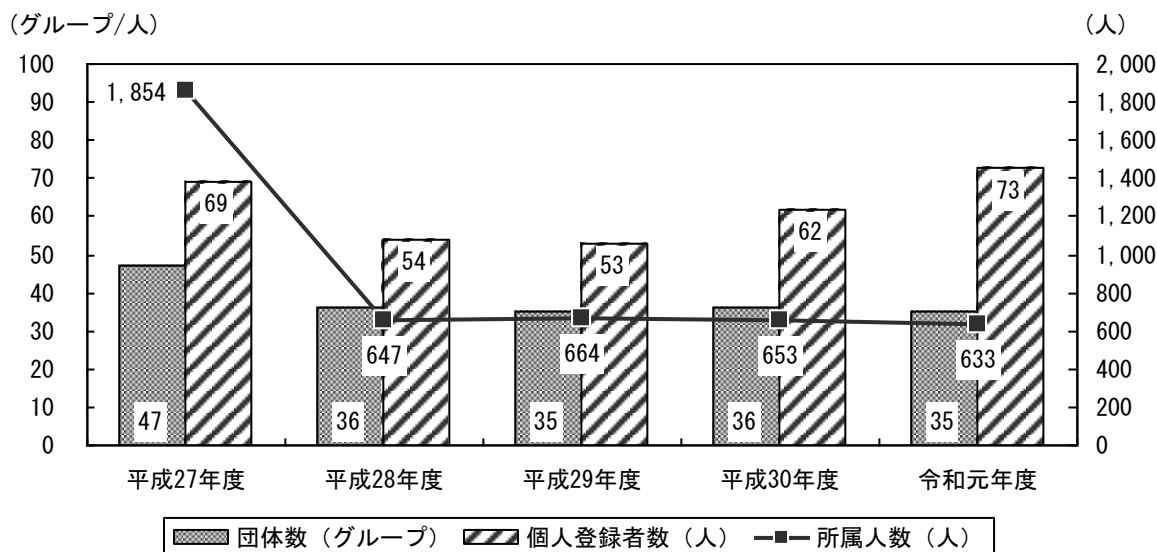
令和元年度の民生委員・児童委員の活動状況をみると、内容別相談件数では、「日常的な支援」、「子どもの地域生活」、「在宅福祉」の順で多くなっています。分野別相談件数では、「高齢者に関すること」が最も多くなっています。



(資料：高齢者・地域福祉課、令和元年度現在)

## (6) ボランティアの活動状況

市ボランティアセンター登録団体数・個人登録者数の推移をみると、団体数は平成27年度の老人給食サービス事業終了により大きく減少した後は、ほぼ横ばいで推移し、令和元年度には35グループとなっています。個人登録者数は平成28年度に減少した後、増加傾向にあり、平成28年度から令和元年度までの間に19人増加しています。所属人数は平成27年度の事業終了により大きく減少した後は、ほぼ横ばいで推移し、平成28年度から令和元年度までの間に14人減少しています。



(資料：加古川市ボランティアセンター)

※ 平成27年度まで、老人給食サービスボランティアグループが多数(11グループ1,164人)登録されていましたが、事業終了に伴いグループから外れています。